

平成25事業年度

公立大学法人県立広島大学  
業務の実績に関する評価結果

平成26年7月

広島県公立大学法人評価委員会

## 広島県公立大学法人評価委員会委員

分野	氏名	現職
大学運営	金安 岩男	慶應義塾大学名誉教授
企業連携 経営改善	西川 正洋	西川ゴム工業(株)代表取締役
教育研究	古賀 一博 (◎)	広島大学大学院教育学研究科教授
地域貢献	葛原 生子	前広島県立生涯学習センター生涯 学習推進マネージャー
財務	福田 和恵	公認会計士

(◎) : 委員長

# 目 次

1	評価方法等 .....	1
2	全体評価 .....	2
3	項目別評価 .....	7

## 資料編

○「平成 24 事業年度に係る業務の実績に関する評価結果」 における評価委員会意見への対応状況について .....	1 7
○「中期目標（第一期）に係る業務の実績に関する評価結果」 における評価委員会意見への対応状況について .....	1 9
○用語説明 .....	2 1

# 1 評価方法等

## 【基本方針】

- 中期目標の達成に向け、法人の中期計画の事業の進捗状況を確認する観点から行う。
- 大学改革の推進に向けた教育研究の質的向上や地域への貢献、運営の改善に資する観点から行う。
- 法人の中期目標の達成に向けた取組状況等を県民に分かりやすく示すよう努める。

## 【評価方法】

- 「年度評価」は、「全体評価」と「項目別評価」により行う。
- 「全体評価」は、「項目別評価」の結果を踏まえ、中期計画の進捗状況全体について、次の事項を総合的に評価する。

- (1) 理事長及び学長のリーダーシップによる機動的・戦略的な大学運営を目指した取組
- (2) 社会に開かれた大学運営を目指して、県民や社会に対する説明責任を重視した取組
- (3) 教育研究等の質を向上させ、県立広島大学の存在意義を高める特色ある取組
- (4) 地域貢献等における特色ある取組及び創意工夫
- (5) 業務運営等の改善及び効率化並びに財務状況の改善に関する取組
- (6) その他必要と認められる事項

- 「項目別評価」は、「小項目評価」及び「大項目評価」により行う。
- 「小項目評価」は、法人の自己点検・評価並びに法人が項目ごとに定めた評価の標準とすべき規準（評価規準）及び評価の段階を判断すべき基準（評価基準）を踏まえ、年度計画の進捗状況及び成果等について、項目ごとに4段階で評価する。
- 「大項目評価」は、中期計画の大項目ごとの進捗状況について、「小項目評価」の結果を踏まえ、5段階で評価する。

### 小項目評価

- 4 年度計画を上回って実施している。
- 3 年度計画を順調に実施している。  
(達成度がおおむね9割以上)
- 2 年度計画を十分に実施していない。  
(達成度がおおむね6割以上9割未満)
- 1 年度計画を大幅に下回っている。  
(達成度が6割未満)

### 大項目評価

- S 年度計画の実施について特筆すべき進行状況にある。  
(評価委員会が特に認める場合)
- A 年度計画の実施が順調である。  
(すべて3~4)
- B 年度計画の実施がおおむね順調である。  
(3~4の割合が90%以上)
- C 年度計画の実施がやや遅れている。  
(3~4の割合が90%未満)
- D 年度計画の実施について重大な改善事項がある。  
(評価委員会が特に認める場合)

- 教育・研究等の質の向上に関する項目の評価は、教育研究の特性の配慮から、法人から提出された業務実績報告書に基づき、事業の外形的・客観的な進行状況の評価を行う。

## 2 全体評価

- 県立広島大学は、平成 17 年 4 月、県立 3 大学を再編・統合して開学し、平成 19 年 4 月、公立大学法人として設立された。「地域に根ざした、県民から信頼される大学」を基本理念として、設立団体である広島県が定めた中期目標を達成するため、地域社会で活躍できる実践力のある人材を育成するとともに、地域に根ざした高度な研究を行い、もって地域社会の発展に寄与することを使命としている。
- 平成 25 事業年度は、第二期中期計画の初年度にあたり、第一期中期計画の取組を踏まえた上で、第二期中期計画で定める 4 つの目標（①実践力のある人材の育成、②地域に根ざした高度な研究、③大学資源の地域への提供と新たな知的資産の創造、④大学運営の効率化）の達成を見据えた年度計画を策定し取り組んできた。
- 平成 25 事業年度の業務実績評価については、4 つの大項目のうち、2 項目が A 評価（「年度計画の実施が順調である。」）、2 項目が B 評価（「年度計画の実施がおおむね順調である。」）であることなどを総合的に勘案すると、平成 25 事業年度に設定された年度計画はおおむね順調に実施されたものと評価できる。
- 具体的には、次の事項で着実な成果を上げていると評価できる。

※No.は中期計画の小項目番号を示す。

- ・ 入学後の学部学科とのミスマッチ等の課題に対応するとともに、学部学科の特色づくりの一環として、生命環境学部生命科学科において、学年進行の過程で専門分野を選べる制度として、平成 26 年度入学生から、2 年次進級時に専門分野を選択させる制度（履修コースの経過選択制）の導入を決定したこと。（No.31）
- ・ 経営学分野の機能強化のため、新たに特任教授を採用し、先行大学調査を行うとともに、経営学修士課程（MBA）の設置に向け、構想の具体化並びに設置スケジュールの検討を開始し、平成 28 年 4 月開設（予定）を決定したことに加え、MBA の設置へのニーズ把握・分析のため、「マネジメント特別連続講座」、「マネジメント基礎講座」、「マネジメント実務講座」を実施したこと。（No.36）
- ・ 大学の国際化を推進するため、「国際交流推進に係る事業方針について」及び「Action Plan 国際交流推進行動計画」を策定するとともに、留学生の受け入れ目標を前倒しで達成するため、平成 26～28 年度を計画期間とする「グローバル化推進プロジェクト」を策定し、特任教授の採用を決定したこと。（No.39）
- ・ 秋入学制への対応のため、大学院総合学術研究科生命システム科学専攻（博士課程前期）において、海外学術交流協定締結校を対象としたイングリッシュトラック制（学位取得のための授業を全て英語で実施する教育プログラム）の新設に併せて、平成 26 年度秋季募集を決定したこと。（No.43）
- ・ 外部資金獲得促進のため、科学研究費補助金獲得に向けた、申請支援のためのセミナーの企画・実施等により、同補助金申請率（97.7%）が高い数値となり、獲得件数（91 件）が目標を上回ったこと、及び外部資金の獲得に対するインセンティブを高める方策として、外部資金獲得実績に応じ、間接経費の一定の額を学部等へ還元する制度の平成

26年度からの導入を決定したこと。(No.57)

- ・ 成熟社会における県民の高度な学習ニーズに対応するため、従来からの公開講座等のほか、新たに広島市立大学と連携した、社会人を対象とした学び直し講座など、地域のニーズに応える多様な公開講座を提供し、受講者満足度において高い評価を得たこと。

(No.65)

- ・ 大学内部における情報の共有化を進め、透明性のある大学運営を行うため、目標・計画に係る説明会や新任・昇任教員研修等において、教職員に対し、法人や大学の事業執行方針等についての周知・共通理解に努めるとともに、学長の企画・運営により、3キャンパスで学部生等と直接意見交換を行う「ランチミーティング」や、教職員と直接意見交換を行う「学長オフィスアワー」を行ったこと、及びホームページに教職員専用コーナーを設け、情報の共有化を図っていること。(No.73)

併せて、教職員それぞれの継続的な努力により、着実に成果を上げつつある取組が数多く見受けられる点も評価したい。

- また、平成24事業年度及び中期目標（第一期）の評価結果において、本評価委員会が課題・意見として取り上げた事項について、それぞれ真摯な対応がなされている点についても評価できる。

引き続き、着実な業務の推進とその成果に期待する。

- (注) 平成24事業年度及び中期目標（第一期）に係る業務の実績に関する評価結果における評価委員会意見への対応状況については、資料編のとおり。

## 〔大項目評価結果〕

大項目	S 特筆すべき 進行状況	A 順調	B おおむね 順調	C やや遅れて いる	D 重大な 改善事項 がある	小項目 評価結果
I 実践力のある人 材の育成（教育 の質の向上）			B			4 (4), 3 (53) 2 (2), 1 (0)
II 地域に根ざした 高度な研究（研 究の質の向上）		A				4 (1), 3 (7) 2 (0), 1 (0)
III 大学資源の地域 への提供と新た な知的資産の創 造（地域貢献）		A				4 (1), 3 (13) 2 (0), 1 (0)
IV 大学運営の効率 化（法人経営）			B			4 (1), 3 (30) 2 (1), 1 (0)

※ 小項目評価結果（ ）内の数字は、項目数の合計

## 【中期目標・中期計画の主な進捗状況等】

中期目標・中期計画の主な進捗状況等については、次のとおりである。

※No.は中期計画の小項目番号を示す。

### （１）理事長及び学長のリーダーシップによる機動的・戦略的な大学運営を目指した取組

- 全学的な教学マネジメントの確立を目指し、学長直属の教育改革推進委員会を設置し、全学人材育成目標を新たに策定・公表し、全学アドミッション・ポリシーの点検を行うとともに、総合教育センターや学部・研究科等と連携し、教育内容の質的向上・質的転換を図るための取組を推進した。（No.1～4, 11, 14～16, 23, 28, 75）
- 学内横断的な重要課題に対する対応を行った。
  - ・ 教育改革・大学連携担当の学長補佐及び経営企画室に教育改革・大学連携担当を設置（No.12, 50, 73）
  - ・ 入試広報と一体となった戦略的広報を実施するため「広報室」を設置（No.19, 73, 82, 83）
  - ・ 国際交流担当学長補佐の廃止及び研究・地域貢献担当理事による国際交流室長の兼

務並びに「国際交流推進に係る事業方針について」及び「Action Plan 国際交流推進行動計画」の策定 (No.39, 73)

- ・ 「サテライトキャンパスひろしま」の設置・運営 (平成 25 年 4 月) (No.50, 51)

- 外部資金獲得促進のため、科学研究費補助金獲得に向けた、申請支援のためのセミナーの企画・実施等により、同補助金申請率 (97.7%) が高い数値となり、獲得件数 (91 件) が目標を上回った。また、外部資金の獲得に対するインセンティブを高める方策として、外部資金獲得実績に応じ、間接経費の一定の額を学部等へ還元する制度の平成 26 年度からの導入を決定した。(No.57, 84)

## (2) 社会に開かれた大学運営を目指して、県民や社会に対する説明責任を重視した取組

- 理事を室長とする広報室を設置し、ステークホルダー別年間広報実施計画を策定し、大学ポスターの作成やテレビコマーシャル等による戦略的情報発信を行った。(No.19, 82)
- 海外向け広報として、ホームページに、中国語 (簡体字, 繁体字), 韓国語の大学紹介を掲載するとともに、英語版「大学案内」を作成し、海外における広報資料として活用した。(No.21, 41, 83)
- ホームページにおいて、教員の研究教育活動等に関する情報を公開した。(No.56, 69, 78, 99)

## (3) 教育研究等の質を向上させ、県立広島大学の存在意義を高める特色ある取組

- 全学的な教学マネジメントの確立を目指し、学長直属の教育改革推進委員会を設置し、全学人材育成目標を新たに策定・公表し、全学アドミッション・ポリシーの点検を行うとともに、総合教育センターや学部・研究科等と連携し、教育内容の質的向上・質的転換を図るための取組を推進した。(No.1~4, 11, 14~16, 23, 28, 75) (再掲)
- 要支援学生の早期発見、迅速かつ適切な対処を図るため、UPI 調査を全学で実施するとともに、フィードバック面接を実施したほか、「要支援学生の早期発見及び対応策について」(平成 25 年 3 月策定)の要支援学生へのモデルパターンとしての対応フロー図の学内周知、学生相談室と各学部・学科によるチーム支援やピア・サポーター<sup>\*1</sup>の育成、3キャンパスへのピア・プレイス<sup>\*2</sup>の整備など、予防的な学生支援への転換を図り、包括的な支援を実施した。(No.47)
- 経営学分野の機能強化のため、新たに特任教授を採用し、先行大学調査を行うとともに、経営学修士課程 (MBA) の設置に向け、構想の具体化並びに設置スケジュールの検討を開始し、平成 28 年 4 月開設 (予定) を決定したことに加え、MBA の設置へのニーズ把握・分析のため、「マネジメント特別連続講座」、「マネジメント基礎講座」、「マネジメント実務講座」を実施した。(No.36)
- 大学院総合学術研究科生命システム科学専攻 (博士課程前期) において、海外学術交流協定締結校を対象としたイングリッシュトラック制の新設 (平成 26 年秋入学) を決定し、実施環境の整備に取り組んだ。(No.21, 22, 41, 43)



- 重点研究事業において、重点的に取り組むべき研究分野の明確化、学際的・先端的研究における募集区分の見直し、広島県立総合技術研究所との共同研究区分の新設などを行い、県内産業の振興や地域課題の解決に資する研究に取り組んだ。(No.53, 54, 56)
- 「サテライトキャンパスひろしま」において、県内大学等との単位互換の実施や新たな教育プログラムの企画・共同実施、各種公開講座の実施などに取り組んだ。(No.50～52, 61～65)

#### (4) 地域貢献等における特色ある取組及び創意工夫

- 地域から提案された課題について地域課題解決研究（重点研究事業）を実施するとともに、協定締結自治体との連携による地域戦略協働プロジェクトを実施し、大学シーズの地域への還元積極的に取り組んだ。(No.53, 54, 56, 67)
- 成熟社会における県民の高度な学習ニーズに対応するため、従来からの公開講座等のほか、新たに広島市立大学と連携した、社会人を対象とした学び直し講座など、地域のニーズに応える多様な公開講座を提供し、受講者満足度において高い評価を得た。(No.65)

#### (5) 業務運営等の改善及び効率化並びに財務状況の改善に関する取組

- 大学全体の改革に向けた取組を着実に実施するため、「戦略・運営会議」を定例的に開催し、大学運営における情報の共有化と公立大学法人としての組織的な方針案の決定に努めるなど、法人運営の一元化と事業執行の効率化・迅速化に資する体制の一層の定着を推進した。
- 教員業績評価委員会において、教員業績評価制度の給与等への反映に関する方策を検討し、平成28年度を目途とする試験導入に向けて、必要となる取組とスケジュールを策定し、教育活動に係る評価基準の統一化や教員活動情報公開システムの構築を行った。(No.78)

#### (6) その他必要と認められる事項

- 収容定員充足率（平成25年5月1日現在）については、学部全体で107%、専攻科（助産学）80%、大学院（総合学術研究科）96%となった。
 

学部（全体）	107%（収容数 2,471 名／収容定員 2,310 名）
専攻科（助産学）	80%（収容数 12 名／収容定員 15 名）
大学院（研究科）	96%（収容数 168 名／収容定員 175 名）
- 就職率については、98%（平成26年5月1日現在）となっており、11学科のうち、人間文化学部健康科学科及び保健福祉学部の5学科が100%を達成した。(No.48)

### 3 項目別評価

#### I 実践力のある人材の育成（教育の質の向上に関する目標）

評価結果 B 年度計画の実施がおおむね順調である。

※評価対象項目の合計 59 項目のうち、3 又は 4 の割合が 96.6%であることから、大項目評価としては、「B評価」と認められる。

#### 〔小項目評価結果〕

区 分	評価対象 項目数	4 上回って 実施して いる	3 順調に 実施して いる	2 十分に 実施して いない	1 大幅に 下回って いる
1 教育に関する目標	23		22	1	
1-1 教育内容の質的向上・質的転換	16		16		
1-2 意欲ある学生の確保	7		6	1	
2 学士課程教育に関する目標	14	1	12	1	
2-1 卒業時に保証する能力水準の具体化とその確保	1		1		
2-2 全学共通教育の充実	5		5		
2-3 専門教育の充実	6	1	5		
2-4 キャリア教育の充実	2		1	1	
3 大学院教育等に関する目標	5	1	4		
3-1 大学院教育に係る教育内容の充実	4	1	3		
3-2 助産学専攻科に係る教育内容の充実	1		1		
4 国際化に関する目標	5	2	3		
5 学生への支援に関する目標	8		8		
6 大学連携推進に関する目標	4		4		
合 計	59	4	53	2	

## 【特記事項】

※No.は中期計画の小項目番号， [ ] 内の数字は小項目評価を示す。

### 1 教育に関する目標

#### 1-1 教育内容の質的向上・質的転換

##### ○ 教育内容・方法の改善に資するFD<sup>※3</sup>の推進 (No.5) [3]

平成24年度の学生による授業評価に係る結果報告書を作成するとともに、学生も含めて学内に周知したこと、また、平成25年度の結果報告書においては、記載内容を見直し、教育内容・方法の改善につながる取組を進めたことは評価できる。

##### ○ 全学的な教学マネジメントの確立 (No.11) [3]

教育改革推進委員会を設置し、全学人材育成目標の策定や全学共通教育科目の改革など、全学的な教育の改革・改善につながる取組が進んでいることは評価できる。

#### 1-2 意欲ある学生の確保

##### ○ 戦略的な広報による優秀な学生の確保 (No.19) [3]

「県大へ行こう—授業公開週間」を新たに実施し、学部開講授業を高校生へ公開したことは、大学における学修について具体的にイメージしてもらう機会を提供する新たな取組として評価できる。

##### ○ 定員充足率の改善 (No.22) [2]

《課題・意見》

企業・行政機関の訪問や学部生へのアンケート調査などに加え、次年度の進学者増に向けた取組としてイングリッシュトラック制の導入の決定が行われているが、大学院総合学術研究科の定員充足率については、数値目標を大きく下回り、また、前年度を下回っている。学生や社会のニーズを踏まえ、具体的な改善方策の検討をされたい。

### 2 学士課程教育に関する目標

#### 2-2 全学共通教育の充実

##### ○ 英語力の全学的な養成 (No.24) [3]

英語力の全学的な向上を図るため、少人数・習熟度別クラス編成による授業運営、eラーニングシステムの活用促進、現行の受検料補助制度の周知などの取組を行っていることは評価できる。

《課題・意見》

TOEICについては、受検促進に資する仕組みづくりに努められたい。

#### 2-3 専門教育の充実

##### ○ 一貫した学士課程教育の推進 (No.29) [3]

管理栄養士などの専門資格の取得に向け、模擬試験の成績に基づく個別指導や対策講座の実施など、きめ細やかな対策を行い、高い合格率を維持しており、特に、管理栄養士国家試験で合格率100%を3年連続して達成(全国125養成校中2校)したことは評価できる。

**【国家試験合格率】**

※平成25年度実績と全国合格率との比較

区分	管理 栄養士	看護師	助産師	保健師	理学 療法士	作業 療法士	言語 聴覚士	社会 福祉士	精神保健 福祉士
県大	100%	100%	100%	95.3%	96.8%	96.7%	93.3%	86.5%	93.9%
全国	91.2%	89.6%	96.9%	86.5%	83.7%	86.6%	74.1%	27.5%	58.3%

## ○ 専門分野に係る経過選択制の導入 (No.31) [4]

生命環境学部生命科学科において、学年進行の過程で専門分野を選べる制度として、平成26年度入学生から、2年次進級時に専門分野を選択させる制度（履修コースの経過選択制）の導入を決定したことは、年度計画の進行を上回る早期の具体化として評価できる。

## 2-4 キャリア教育の充実

○ キャリア・ポートフォリオ<sup>※4</sup>の活用 (No.34) [2]

《課題・意見》

2年次以上においてキャリア・ポートフォリオが活用されていないが、キャリア・ポートフォリオの活用は、学生が自身のキャリアについて可視化し、自ら考え、評価することにより、主体的な能力開発や行動習慣を身につけることにつながると考えられるので、学生が積極的に活用するための動機づけや仕組みの改善などに取り組まれない。

## 3 大学院教育等に関する目標

## 3-1 大学院教育に係る教育内容の充実

## ○ 経営学分野の機能強化 (No.36) [4]

新たに特任教授を採用し、先行大学調査を行うとともに、経営学修士課程（MBA）の設置に向け、構想の具体化並びに設置スケジュールの検討を開始し、平成28年4月開設（予定）を決定したことに加え、MBAの設置へのニーズ把握・分析のため、「マネジメント特別連続講座」、「マネジメント基礎講座」、「マネジメント実務講座」を実施したことは評価できる。

## 4 国際化に関する目標

## ○ 事業方針の制定 (No.39) [4]

「国際交流推進に係る事業方針について」及び「Action Plan 国際交流推進行動計画」を策定するとともに、留学生の受け入れ目標を前倒しで達成するため、平成26～28年度を計画期間とする「グローバル化推進プロジェクト」を策定し、特任教授の採用を決定するなど、積極的に取り組んだことは評価できる。

## ○ 海外留学等の促進 (No.40) [3]

日本学生支援機構の海外留学支援制度（短期派遣）の採択や新たに3校と海外学術交流協定を締結したことは評価できる。

## ○ 秋入学制への対応 (No.43) [4]

大学院総合学術研究科生命システム科学専攻（博士課程前期）において、海外学術交流協定締結校を対象としたイングリッシュトラック制の新設に併せて、平成26年度秋季募集を決定したことは評価できる。

#### 《課題・意見》

イングリッシュトラック制の導入を契機として、今後カリキュラムのグローバル化を含めた一層の国際化に取り組まれない。また、1年間の授業期間を4つに分ける「クォーター制」についても、今後、研究されたい。

## 5 学生への支援に関する目標

### ○ 学修支援 (No.44) [3]

学修・教育環境の改善・利活用促進を図るため、卒論作成用図書特別貸出制度の運用や学科推薦図書の整備、図書館の開館時間の前倒しを新たに行ったことは評価できる。

学生自らが学修成果の進捗状況を把握できるよう、新入生全員が受検した基礎力調査結果のフィードバック、解説会やキャリア・ポートフォリオ・システムに関するガイダンスをキャリア科目内外で実施したことは評価できる。

#### 《課題・意見》

2年次以上においてキャリア・ポートフォリオが活用されていないが、キャリア・ポートフォリオの活用は、学生が自身のキャリアについて可視化し、自ら考え、評価することにより、主体的な能力開発や行動習慣を身につけることにつながると考えられるので、学生が積極的に活用するための動機づけや仕組みの改善などに取り組まれない。(再掲)

### ○ 学生の「こころ」の健康支援 (No.47) [3]

要支援学生の早期発見、迅速かつ適切な対処を図るため、UPI調査を全学で実施するとともに、フィードバック面接を実施したほか、「要支援学生の早期発見及び対応策について」(平成25年3月策定)の要支援学生へのモデルパターンとしての対応フロー図の学内周知、学生相談室と各学部・学科によるチーム支援やピア・サポーターの育成、3キャンパスへのピア・プレイスの整備など、予防的な学生支援への転換を図り、包括的な支援を実施したことは評価できる。

### ○ 就職支援 (No.48) [3]

キャリアセンターでの総合的な就職支援の取組等の結果、98%と高い就職率を達成し、また、11学科のうち、人間文化学部健康科学科及び保健福祉学部の5学科が100%を達成したことは評価できる。

## 6 大学連携推進に関する目標

### ○ 大学連携の推進 (No.50) [3]

一般社団法人教育ネットワーク中国や広島県と連携し、平成25年4月に県内全大学等共用の「サテライトキャンパスひろしま」の運用を開始し、県内大学等との単位互換を実施したことは評価できる。

また、県補助事業「大学連携による新たな教育プログラム開発・実施事業」の代表校又は連携校として、県内大学による連携講座を提供するとともに、広島市立大学との連携公開講座「社会人のための英語再チャレンジ」、「ひろしま学を考える」を実施するなど、大学連携を進めたことは評価できる。

## Ⅱ 地域に根ざした高度な研究（研究の質の向上に関する目標）

**評価結果** A 年度計画の実施が順調である。

※評価対象項目の合計8項目は、全て3又は4であることから、大項目評価としては「A評価」と認められる。

### 〔小項目評価結果〕

区 分	評価対象 項目数	4 上回って 実施して いる	3 順調に 実施して いる	2 十分に 実施して いない	1 大幅に 下回って いる
1 研究水準及び研究の成果等に関する目標	3		3		
2 研究実施体制等の整備に関する目標	5	1	4		
合計	8	1	7		

### 【特記事項】

#### 1 研究水準及び研究の成果等に関する目標

##### ○ 重点的研究分野の明確化（No.53） [3]

重点的に取り組むべき研究分野を明確化し、これを反映させた募集区分により、重点研究事業37件を採択し、県内産業の振興や地域課題の解決に向けた研究を推進したことは評価できる。

#### 2 研究実施体制等の整備に関する目標

##### ○ 競争的資金の獲得支援（No.57） [4]

科学研究費補助金獲得に向けた、申請支援のためのセミナーの企画・実施等により、同補助金申請率（97.7%）が高い数値となり、獲得件数（91件）が目標を上回ったこと、及び外部資金の獲得に対するインセンティブを高める方策として、外部資金獲得実績に応じ、間接経費の一定の額を学部等へ還元する制度の平成26年度からの導入を決定したことは評価できる。

##### 《課題・意見》

間接経費の還元等の制度や間接経費の用途等に関する情報を広く学内で共有し、教員の外部資金獲得意欲の向上に努められたい。

### Ⅲ 大学資源の地域への提供と新たな知的資産の創造（地域貢献に関する目標）

**評価結果** A 年度計画の実施が順調である。

※評価対象項目の合計14項目は、全て3又は4であることから、大項目評価としては「A評価」と認められる。

#### 〔小項目評価結果〕

区 分	評価対象 項目数	4 上回って 実施して いる	3 順調に 実施して いる	2 十分に 実施して いない	1 大幅に 下回って いる
1 地域における人材の育成に関する目標	7	1	6		
2 地域との連携に関する目標	7		7		
合計	14	1	13		

#### 【特記事項】

##### 1 地域における人材の育成に関する目標

###### ○ 地域の人材育成機能の強化（No.61）[3]

自治体等と協働で実施する地域貢献事業などの情報提供、学生の参加促進を図ったことにより、学生が作成した江田島の観光リーフレットが県内外で活用され、また、「第8回食育推進全国大会」や「こころネットみはらまつり」実行委員としての参加、「ゆるるの森」事業への参加など参加規模の拡大や取組の継続性は評価できる。

「サテライトキャンパスひろしま」において、地域社会の活性化などを担う人材を育成するための各種講座やセミナーを多数開催したことも評価できる。

また、学生・社会人を対象に、中堅・中小企業マネジメントと起業家養成に重点を置いた講座（「マネジメント特別連続講座」など）を開催したことは評価できる。

###### ○ 公開講座の質的充実（No.65）[4]

成熟社会における県民の高度な学習ニーズに対応するため、従来からの公開講座等のほか、新たに広島市立大学と連携した、社会人を対象とした学び直し講座など、地域のニーズに応える多様な公開講座を提供し、受講者満足度において高い評価を得たことは評価できる。

##### 2 地域との連携に関する目標

###### ○ 知的財産の技術移転の促進（No.69）[3]

知的財産化に係る取組の結果、特に、特許登録については、前年の1件から6件に増えたことは評価できる。

○ 地域貢献・連携活動への学生の参加促進 (No.71) [3]

地域貢献・連携活動への学生の参加について、規模が拡大し、継続した取組が行われていることは評価できる。

《課題・意見》

引き続き、学生の主体的な地域貢献・連携活動への参加を促すとともに、これらの活動が、地域の活性化に資するものとなっているか、学生の成長につながっているかを検証する仕組みづくりについて検討されたい。



#### Ⅳ 大学運営の効率化（法人経営に関する目標）

評価結果 B 年度計画の実施がおおむね順調である。

※評価対象項目の合計32項目のうち、3又は4の割合が96.9%であることから、大項目評価としては「B評価」と認められる。

##### 〔小項目評価結果〕

区 分	評価対象 項目数	4 上回って 実施して いる	3 順調に 実施して いる	2 十分に 実施して いない	1 大幅に 下回って いる
1 業務運営の改善及び効率化に関する目標	13	1	11	1	
2 財務内容の改善に関する目標	6		6		
3 自己点検・評価に関する目標	3		3		
4 その他業務運営に関する目標	10		10		
合計	32	1	30	1	

##### 【特記事項】

#### 1 業務運営の改善及び効率化に関する目標

##### ○ 組織運営に係る留意事項と体制の強化（No.73）[4]

大学内部における情報の共有化を進め、透明性のある大学運営を行うため、目標・計画に係る説明会や新任・昇任教員研修等において、教職員に対し、法人や大学の事業執行方針等についての周知・共通理解に努めるとともに、学長の企画・運営により、3キャンパスで学部生等と直接意見交換を行う「ランチミーティング」や、教職員と直接意見交換を行う「学長オフィスアワー」を行ったこと、及びホームページに教職員専用コーナーを設け、情報の共有化を図っていることは評価できる。

##### ○ コンプライアンスの確保（No.76）[2]

###### 《課題・意見》

内部監査実施項目の追加・変更などの方針を決定し、内部監査を実施したものの、内部統制のための基本方針については、情報収集、資料収集にとどまり、基本方針の策定には至っていない。

平成26年度中に、基本方針が策定できるように努められたい。

### ○ 教員業績評価制度の適切な運用 (No.78) [3]

教員業績評価委員会において、教員業績評価制度の給与等への反映に関する方策を検討し、平成28年度を目途とする試験導入に向けて、必要となる取組とスケジュールを策定し、教育活動に係る評価基準の統一化や教員活動情報公開システムの構築を行ったことは評価できる。

《課題・意見》

引き続き、平成28年度を目途とする試験導入をはじめ、教員業績評価制度の給与等への反映に向けた取組に着実に努められたい。

### ○ 戦略的広報の展開 (No.82) [3]

理事を室長とする広報室を設置し、戦略的広報の実施のため、ステークホルダー別に年間広報実施計画を策定するとともに、オープンキャンパスから入試広報まで統一したイメージによる情報発信をポスター、交通広告やテレビコマーシャルなどにより行ったことや、平成24年度に開設したフェイスブックに加え、新たなソーシャルネットワークサービス（ツイッター及びユーチューブ）による情報発信を行ったことは評価できる。

## 2 財務内容の改善に関する目標

### ○ 外部資金の獲得 (No.84) [3]

科学研究費補助金獲得に向けた、申請支援のためのセミナーの企画・実施等により、同補助金申請率（97.7%）が高い数値となり、獲得件数（91件）が目標を上回ったこと、及び外部資金の獲得に対するインセンティブを高める方策として、外部資金獲得実績に応じ、間接経費の一定の額を学部等へ還元する制度の平成26年度からの導入を決定したことは評価できる。（再掲）

《課題・意見》

間接経費の還元等の制度や間接経費の使途等に関する情報を広く学内で共有し、教員の外部資金獲得意欲の向上に努められたい。（再掲）

## 3 自己点検・評価に関する目標

### ○ 自己点検・評価実施と評価結果の活用 (No.91) [3]

《課題・意見》

平成25事業年度業務実績の自己点検・評価に当たって用いた評価規準・評価基準については、今後、より精度を高めて評価内容の客観化に努めるとともに、各年度の自己点検・評価結果を今後の改善につなげ、第二期中期目標の達成を目指されたい。

# 資 料 編

**「平成24事業年度に係る業務の実績に関する評価結果」における  
評価委員会意見への対応状況について**

「平成24事業年度に係る業務の実績に関する評価結果」（広島県公立大学法人評価委員会・平成25年8月）において意見が付された小項目は、次の9項目（うち重複1項目）であった。

区分	意見・指摘事項	主な対応状況
教 育	<b>【複合科目の再編】 (No.5)</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>複合科目の再編については、第二期中期計画や今後の大学改革の動向等を踏まえつつ、学部内及び全学共通教育において、引き続き検討されたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「複合科目」は、平成27年度実施予定のソフト改革における全学共通教育の新プログラムにおいて、総合科目としての「学際性」を継承しつつ、「地域性」と「国際性」という観点（ねらい）をより鮮明に打ち出した「広島と世界」という新領域（科目区分）に発展的に移行させる方向で具体的な検討を進めている。</li> </ul>
	<b>【語学試験の受験促進】 (No.6)</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>TOEIC, TOEFLや中国語, 韓国語検定試験の受験料支援等により受験を促進し、語学力の向上と資格取得のモチベーションを維持する取組を行っているが、受験状況等を分析し、さらなる受験率, 得点の向上を目指していただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人間文化学部において、説明会や受験対策講座等を通じ外国語検定等の受験促進と得点の向上を目指している。</li> <li>平成25年度より英語の科目においては学期ごとのTOEICの結果を成績に反映させる方式を導入しており、受験促進が図られ、語学力の向上が期待できる。中国語検定においては4級・3級の受験促進が図られている。韓国語においても具体的な対応策を検討中である。</li> </ul>
	<b>【学生による授業評価の実施】 (No.32, 44)</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>中間アンケートの実施状況について、組織的に把握, 分析した上で、より質の高い授業の構築に努められたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合教育センターで、実施報告書に掲載する教員コメント記入欄に「履修者の反応を知るために学期中に実施した方法・その結果を踏まえた授業改善点」という項目を設け、中間アンケート等の結果を踏まえた授業改善点の記入を求めた結果、中間アンケート等の実施、活用が定着しつつある。</li> </ul>	
地 域 貢 献	<b>【キャリアセンターにおけるキャリア形成支援】 (No.87)</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>庄原キャンパスにおけるキャリアセンターの満足度については、他のキャンパスの満足度と比べると、大幅に低い状態にあり、要因分析を行い、対応を検討されたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>庄原キャンパスキャリアセンターの利用状況は改善しつつあるが、面接準備等の重要な場面で十分に活用されていない状況が見られたため、個別相談に加えて模擬面接（トレーニング）を適宜実施することとした。</li> <li>学生が志望する職種や分野に関する専門的な支援が不十分との分析結果に基づいて、生命環境学部の専門教員の積極的な関与の必要性が指摘されている。今後は、フレッシュマンセミナー、キャリア教育の中で専門教員の関与・指導を考えることとしている。また、学部教員とキャリアアドバイザーやキャリア教育担当教員との連携を強化する。</li> </ul>
地 域 貢 献	<b>【広島県との連携】 (No.104)</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後、「サテライトキャンパスひろしま」を魅力ある学びの場, 交流の場とし、大学生はもとより、多くの社会人にも利用されるよう、県内他大学等をはじめ、産業界やNPO等との連携強化に努められたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成25年度に開設した「サテライトキャンパスひろしま」において、県内大学の学生を対象とした単位互換科目, 社会人・学生を対象とした県補助事業の大学連携による新たな教育プログラム等の大学連携講座, 県内各大学の講義・公開講座等を開講するとともに、学生団体の交流及び産業界・NPO等の団体による公益に資する各種研修会・報告会に利用されており、地域の教育, 産学連携, 学生・社会人の交流拠点として機能している。</li> </ul>

区分	意見・指摘事項	主な対応状況
地域貢献	<p><b>【留学に関する支援の充実】 (No.124)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今後、海外留学を促進するため、帰国後の学生に対する就職支援の充実や、海外留学に対する経済支援など、インセンティブとなる仕組みづくりについて検討していただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>留学先大学等での取得単位の「単位認定」の検討を開始</li> <li>経済的負担の大きい留学先に留学する学生に対する支援を充実させるため、既存の奨学金制度を拡充させる。</li> <li>留学先として希望者の多い英語圏の大学との交流協定締結を推進していく。</li> <li>長期留学への動機付けとして、海外留学スタートプログラムや、学生ニーズの高い欧米圏への留学先を拡充するための大学プログラムの新設等を行い、短期留学を促進する。</li> <li>就職支援については、帰国後、就職関連情報の提供などを個別にきめ細かに行っているところであるが、留学中においても情報提供に努めていくこととする。</li> </ul>
	大学運営	<p><b>【給与制度の弾力的運用】 (No.147)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>給与制度の弾力的運用に向けた課題等を整理し、他大学における先行事例も参考として、今後の対応について検討されたい。</li> </ul>
<p><b>【教員業績評価制度の導入】 (No.152)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>給与等への反映については、他の公立大学における導入状況等の調査にとどまり、実施方策の具体的な検討には至っていないことから、業績評価の給与等への反映に向けた検討を進められたい。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>業績評価の給与反映について、平成 28 年度に試行実施することとし、これを目途に制度設計等を行うよう準備を進めている。</li> </ul>

**「中期目標（第一期）に係る業務の実績に関する評価結果」における  
評価委員会意見への対応状況について**

「中期目標（第一期）に係る業務の実績に関する評価結果」（広島県公立大学法人評価委員会・平成25年8月）において意見が付された小項目は、次の9項目（うち重複1項目）であった。

区分	意見・指摘事項	主な対応状況
教 育	<b>【遠隔講義システムの改善と高度利用】（No.41）</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ システム導入による効果検証を行いつつ、更なる有効利用に努められたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全学共通教育科目において、遠隔講義システムによる授業に、3キャンパス合同のフィールドワークや対面授業などを組み合わせることを検討し、平成25年度後期科目「地域の理解」において先行的に実施した。学生による授業評価の満足度は高く、肯定的な回答の割合は97.8%であった。</li> <li>・ 遠隔講義システムにより予め基本となる情報を発信し、その視聴がなされていること（事前学習）を前提として行う授業方法を検討している。</li> <li>・ 人間文化学部健康科学科において、生命環境学部で開設している高校理科（生物）の補習授業を遠隔講義システムにより広島キャンパスで受信し、学生2名に提供した。</li> <li>・ 経営情報学部の特別講義や学外者を対象とするセミナーの一部を、遠隔講義システムを利用して他キャンパスに発信した。</li> <li>・ 総合学術研究科生命システム科学専攻の外部講師による授業「生命システム科学特別講義」の全15回を、遠隔講義システムにより、3キャンパスの院生（博士課程前期及び後期在籍者）が同時に受講できるようにした。</li> </ul>
	<b>【学生による授業評価の実施】（No.44）</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アンケート結果については、学長、副学長、学部長が共有し、必要に応じて教員への個別指導に活用するにとどまっていることから、引き続き、教育の改善を図るため、他大学の活用状況等も踏まえ、教員間での共有を進めるなど、一層の有効活用を図っていただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員の実践を全学の教員で共有し、組織的な授業の改善に資することを目指して、例えば学期中に履修者の反応を知るために行う中間アンケートの活用積極的に取り組むなどの授業実践を行っている教員の授業を学部推薦により公開するなど、教員間で共に学び合うための情報として、活用方法を引き続き検討する。</li> </ul>
	<b>【インターンシップ制度の充実】（No.48, 84）</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全学共通教育科目「インターンシップ」や経営情報学部及び生命環境学部において専門科目を開講するとともに、就業体験の受入先企業の開拓推進を図っており、履修した学生からは高い評価を得ているが、受入団体数、実習学生数は伸び悩んでおり、その要因を十分分析した上で、対応策を検討されたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 総合教育センターにおいて、全学共通教育科目「インターンシップ」の履修状況等を分析し、今後の受講者増対策としては、開講前の学生への周知が重要かつ有効との結論に至っている。現在、学生への周知方法等について当該科目担当教員を中心に具体的に検討を進めている。</li> <li>・ 経営情報学部の専門型インターンシップ（経営情報学実践実習）は受入先企業が限定され、受講者を制限してきた。専門型インターンシップの実施方法について、今後、学部で検討する。</li> <li>・ 生命環境学部において就職支援の一環として行っている企業開拓・企業訪問の際に、インターンシップ制度への協力依頼を併せて行うこととした。また、産学連携に係る共同研究機関である企業との間で、インターンシップの受け入れの可能性を協議する。</li> </ul>

区分	意見・指摘事項	主な対応状況
教育	<b>【GPA・GPC制度の活用】 (No.58)</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>GPC制度については、引き続き、教員が個々に行う教育活動を検証し、教育の質の向上を図るため、段階的公表も含めた具体的な活用方法を全学的に検討し、制度の効果的な運用に努められたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成25年度の総合教育センター高等教育推進部門会議において継続して審議を行った。平成27年度実施予定の教育改革と合わせてGPA制度の見直しを行う予定とし、次のとおりGPCの活用について素案をまとめた。 <ul style="list-style-type: none"> <li>(ア) GPC及び成績分布に関する情報共有に努め、授業改善の指標として利用する。</li> <li>(イ) 同一科目で担当者が異なる科目について、評価基準の妥当性を検討する。</li> </ul> </li> </ul>
育	<b>【キャリアセンターにおけるキャリア形成支援】 (No.87)</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリアセンターの満足度について、庄原キャンパスのキャリアセンターの満足度が、平均を大幅に下回っている。</li> <li>引き続き、各キャンパスの特性に十分配慮したきめ細かな就職支援等に努められたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>庄原キャンパスキャリアセンターの利用状況は改善しつつあるが、面接準備等の重要な場面で十分に活用されていない状況が見られたため、個別相談に加えて模擬面接（トレーニング）を適宜実施することとした。</li> <li>学生が志望する職種や分野に関する専門的な支援が不十分との分析結果に基づいて、生命環境学部の専門教員の積極的な関与の必要性が指摘されている。今後は、フレッシュマンセミナー、キャリア教育の中で専門教員の関与・指導を考えることとしている。また、学部教員とキャリアアドバイザーやキャリア教育担当教員との連携を強化する。</li> </ul>
大学運営	<b>【給与制度の弾力的運用】 (No.147)</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>給与制度の弾力的運用に向けた課題等を整理した上で、他大学における先行事例も参考として、今後の対応について検討されたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>業績評価の給与反映について、平成28年度に試行実施することとし、これを目途に制度設計等を行うよう準備を進めている。</li> </ul>
	<b>【教員業績評価制度の導入】 (No.152)</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>給与等への反映については他の公立大学における導入状況等の調査にとどまり、実施方策の具体的な検討には至っていない。引き続き、業績評価の給与等への反映に向けて、検討を進められたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>業績評価の給与反映について、平成28年度に試行実施することとし、これを目途に制度設計等を行うよう準備を進めている。</li> </ul>
<b>【事務職員評価制度の導入】 (No.153)</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>平成21年度から法人職員の勤務評定を実施しているが、県が導入している「目標申告・成果評価」制度は導入されていないことから、導入に向けた検討を進められたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標管理制度の導入に向け、平成26年度から試行を行うこととし、実施方法を整理中である。</li> </ul>	

## 用 語 説 明

番号	用 語	解 説
1	ピア・サポーター	学生同士の相談活動や修学支援等のピア・サポート活動を行う，あらかじめ研修を受けた学生。
2	ピア・プレイス	心理的不適応等の諸問題を抱えた学生などが，学内で安心して過ごせる場。
3	FD（ファカルティ・ディベロップメント）	教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組の総称。
4	キャリア・ポートフォリオ	学生が，自らのキャリア形成について，自分自身で考え，振り返り，充実した大学生活をデザインしていくことを支援するために，大学での学びや課外活動で身につけた力を可視化するシステム。目標設定と振り返りに係る活用（記述・更新等）が随時できる。